

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第7号（通算79号）
令和2年11月20日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

さかえ学園



10月28日（水）

いじめ見逃しゼロスクール集会で、地域の方と児童生徒で、通信機器の利用についてグループ討議をしました。

角度を変えて物事を捉える大切さ

小中一貫教育推進課 指導主事 吉田 卓司

小学校3年生理科の「こん虫」学習では、モンシロチョウを育てることが多いです。子どもが捕まえてきたモンシロチョウの幼虫のほとんどはアオムシコマユバチに寄生されているため、さなぎになることなく死んでしまいます。大切に幼虫を育ててきた子どもにとってアオムシコマユバチは敵でしかありません。しかし、アオムシコマユバチがいなかったらどうなるのでしょうか。1対のモンシロチョウが1回に約200個の卵を産みます。生まれる雄と雌の比率が1対1、年間約6回産卵すると仮定すると、1年で1対が200億匹に増えることになります。世の中モンシロチョウだらけです。高騰した野菜を購入するか、農薬漬けた野菜を食べるかの選択に迫られることでしょうか。野菜を育てている人にとって、アオムシコマユバチは益虫です。この事実を知った子どもは、単なる敵という見方・考え方から変容していきます。また、自然の中で飛んでいるモンシロチョウを愛おしい存在として捉えるようになります。

子どもは何もしなければ、物事を自分中心の角度で捉えます。それはごく当然のことです。しかし、例に挙げたように、教師が手立てを講じることによって、角度を変えた見方・考え方ができるようになります。様々な角度から物事を捉えることができる子どもは変化の多いこれからの世の中をたくましく生き抜くことができます。また、子どもを様々な角度から見て一人一人のよさを捉え、成長への支援を探っていくことも教師の大切な役割です。

難しいことも多くあるかもしれませんが、「目の前の子どものために何ができるか」ということは、教師の使命でもあり、楽しさでもあってほしいなと考えています。

しただの郷学園



11月7日(土)に第2回しただの郷学園運営協議会兼下田中学校運営協議会が開催されました。当日は、下田中学校のオープンスクールでもあり、会議前に委員の皆様も1年生の親子学年レクや2、3年生の授業を参観しました。会議では、あいさつ標語の選定やカレンダー作成について検討後、しただの郷学園が目指す子どもたちの姿、地域の歴史や由来、人材、ふるさと下田の良さ、今後の活性化等について熱い熟議が行われました。

三条嵐南学園



準備(小中班長会)

11月5日(木)に、いじめ見逃しゼロスクール集会が開催されました。「ネット・SNSの危険性→そこから考えられる人間関係のトラブルやいじめ」をテーマに話し合いました。多くの考えや意見が出されました。「自分が考えもしないようなトラブルなどを小学生がたくさん発表してくれて、考えがさらに深まりました」「相手を思って行動することが大事だと思いました」などの感想が出され、充実した会となりました。

瑞穂学園



11月2日(月)の放課後に三校の研究主任や特別支援コーディネーター等の先生方が集まり、各校の現状や取組について情報交換をしたり、今後の方針について話し合ったりしました。教職員が顔を合わせてつながり、学園の子どもたちの育成を考えていく取組です。今後も定期的に行っていくことを計画しており、Zoomを使うことも視野に入れていました。短い時間でも、中身の濃い話合いの様子が伺えました。

三条おおじま学園



11月5日(木)に「深めよう“絆”スクール集会」が開催されました。

各学校からのいじめ見逃しゼロへの取組発表では、縦割りの班編成で上級生から下級生に優しく声を掛けられる雰囲気づくりを醸成したり、「い・め・え・じ」「一人一人が居心地の良い学校」という合言葉やスローガンを掲げたりするなど、様々な活動に取り組んできた成果を報告しました。

後半ではシンガーソングライターの TSUNEI さんを講師に迎え、学生時代に受けたいじめをどのように克服し、それをエネルギーに変えてきたか、というお話をお聞きし、子ども達に勇気を与えていただきました。

一ノ木戸ポプラ学園



10月29日(木)に第2回一ノ木戸ポプラ学園運営協議会が開催されました。

前期学校評価結果や小中一貫教育推進各部会の取組と計画の説明の後、次年度の学園のグランドデザイン作成に向けてのグループ協議が行われました。

学園で目指す子どもの姿やそれを具現するための取組について、どのグループでも熟議が行われました。第3回の学園等運営協議会で、より具体的に検討していく予定です。

四つ葉学園



10月20日(火)に学園小中合同防災訓練が開催されました。CS ディレクターを中心に「地域の語り部」を選定していただき、小中学生とともに、水害のあった場所を訪れました。過去の水害の様子を見聞きすることで、防災に対する意識を高めることができました。また、地域の歴史についても話をしていただく貴重な機会となりました。

地域の方との交流を通して、地域への愛着と感心をもつ契機にすることができました。

三条学園



ジェスチャーしりとりの様子

11月10日(火)に、いじめ見逃しゼロスクール集会が開催されました。新型コロナウイルス感染防止対策により、小中別日・別会場による実施となりました。中学校では、ジェスチャーしりとりをしたり、いじめをテーマにした劇を作って視聴し考えを深めたりしました。劇の動画は、小学校での活動に生かせるように各小学校に送りました。小中別日・別会場であっても、つながりをより一層大切に活動となりました。

大崎学園



11月3日(火)にPTCAボランティアが行われました。Cはコミュニティを意味し、大崎コミュニティの皆さんと協働する活動です。今回は約170名の参加がありました。様々な活動場所にわかれ、花や球根を植えたり、花壇の整備を行ったりしました。地域貢献活動としてだけでなく、地域住民にとっても、地域とつながるよい機会となっています。子どもたちからも「ボランティアで地域の人と一緒に活動できてよかった。」といった感想が聞かれました。

子どもの科学教室「地学教室」を開催

三条市科学教育推進事業の一つとして、「子どもの科学教室」を開催しています。物理、化学、生物、地学、星空の5つの教室がありますが、今回は「地学教室」を紹介します。

今年度、「地学教室」は、10月3日(土)に開催しました。「寺泊と出雲崎の大地をさぐる地学教室」というテーマで、太古の海底に堆積した地層を観察し、「天領出雲崎時代館・出雲崎石油記念館」を見学しました。1日日程です。主な観察地を紹介します。

1. 長岡市、郷本川河口の露頭（椎谷層下部[630万～380万年前]）
2. 長岡市、島崎川（落水川）河口の露頭（西山層[380万～180万年前]）
3. 「天領出雲崎時代館・出雲崎石油記念館」
4. 出雲崎町、小木の露頭（灰爪層[180万～100万年前]）

郷本川河口の地層から始まり、古い地層からだんだん新しい地層を観察することになります。最後の出雲崎町小木では、いろいろな貝化石を採取することができました。子どもたちは、実際の地層や化石に触れ、楽しく学ぶことができたと思います。

子どもたちの感想を紹介します。

- ・層がいろいろな色で混じっていて、すごいと思いました。化石がたくさん取れて楽しかったです。
- ・いろいろな貝殻や石があって、楽しかった。

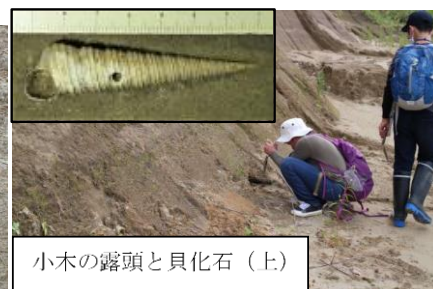
先生方も、是非、「子どもの科学教室」に活動支援スタッフとして参加され、子どもたちと一緒に楽しく活動していただければありがたいと思います。



郷本川河口の露



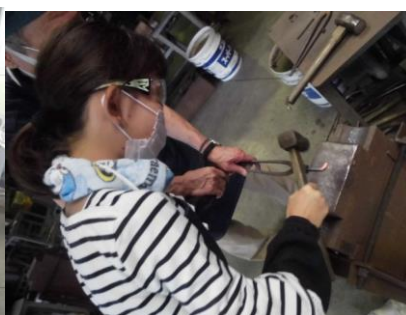
島崎川河口の露頭



小木の露頭と貝化石(上)

刃物、ものづくり教育

三条は古くから、和釘や農具、包丁や鋏などをつくる職人の町として発展してきました。そうした歴史を踏まえ、市の特色ある教育として「刃物・ものづくり教育」を進めています。市の施設である鍛冶道場で実施されている「和釘づくり学習」を紹介します。



体験者は、まず、長谷川館長より三条の鍛冶の歴史についての話を聞きます。その後、エプロン、手カバー、保護メガネを身に付けて体験場で和釘(階折釘)を2本つくります。1本は指導者と一緒に、2本目はできるだけ自分でつくります。工程は2つ。頭部を曲げる工程と先端を尖らせる工程です。鉄の角材をつかみばしでつかみ、火床(ほど)に入れ180度程度に熱し、金床(かなとこ)の上で、鋸で叩いて形をつくります。堅い鉄がどンドンと形を変えていくことに子どもたちは驚き、感動します。三条が誇る「刃物・ものづくり教育」です。